

越境大気汚染に関する科学者・政策決定者の認識についての研究

- 日本における面接調査結果 -

Perceptions on Transboundary Air Pollution among Scientists and Policy Makers

- Results from Interview Surveys in Japan -

財団法人 地球環境戦略研究機関 松本 奈穂子

1. はじめに

経済発展が著しい東アジア地域においては、近年、窒素酸化物、揮発性有機化合物等の大気汚染物質、並びに二酸化炭素等の温室効果ガスの排出量が急増し、オゾン・エアロゾルの越境輸送、半球規模でのバックグラウンド濃度上昇に加え、地球規模での温室効果ガスの増大をもたらしている。これらの問題の解決のためには、東アジア地域において大気環境に関する実効性のある国際協力枠組を構築することが急務であるが、越境大気汚染に関する関係各国の見解・国際協力に対する姿勢には隔たりがみられる。本研究は、日中韓およびタイにおいて科学者・政策決定者を対象に実施した越境大気汚染に関する認識についての調査のうち、日本における調査結果をもとに、回答者および関連したステークホルダーの認識の共通点・相違点を分析するとともに、東アジア地域の大気環境管理のための国際枠組のあり方を検討し、枠組作りに関わる制約要因および課題の同定を行った。

2. 調査方法

調査は、越境大気汚染問題に関連した分野の科学者および政策決定者を対象に、半構造化面接形式で行った。事前に送付した共通の質問票に基づき、越境大気汚染に関する回答者自身の認識および他者の認識、関連する国内政策・国際協力についての制約要因と課題について意見を求めた。質問の表現、順序、内容などは、被面接者の回答状況に応じ変更した。面接調査にあたっては、大気化学、気象学・気候学、アジア環境協力、環境経済の分野における専門家、国、都道府県、市町村の各レベルの行政関係者、計7名の方々にご協力を頂いた。

3. 調査結果

面接調査で得られた結果の概要は、表1のとおりである。回答者は概ねアジア大陸起源のオゾン・PM_{2.5}を問題と認識していたが、他のステークホルダーの認識は様々であるという回答が得られた。また、国際協力の制約要因としては、環境管理能力、枠組に関する議論のプロセス等が挙げられた(表2)。

4. 考察

国内ステークホルダーの認識の違いの原因としては、越境大気汚染の影響に関する科学的研究の蓄積・科学コミュニケーションが比較的発展段階の初期にあること、影響度合いに地域的

偏りがみられること等が考察される。国外との違いは、地理的条件の相違に加え、越境汚染への寄与を認めることについての抵抗感、国際枠組でのリーダーシップをめぐる競争等が背景にあると考えられる。

表1 調査結果の概要

| 質問事項 | | 回答の概要 |
|-------|--------------|---|
| 自身の認識 | 科学的確かさ | 全ての回答者が認識 |
| | 問題の深刻さ | 定量的な評価にはつながらず |
| | 重要な汚染物質 / 起源 | O ₃ 、PM _{2.5} (含 黄砂) アジア大陸起源という見方多 |
| 他者の認識 | 科学者の認識 | 科学者間で共通との見方多 |
| | メディアの認識 | 中国の寄与を意図的に強調 |
| | 産業界の認識 | 業種によって捉え方様々 |
| | 一般市民の認識 | 認識には地域差 |
| 国内政策 | 他国の認識 | 国内大気汚染問題優先(中) 黄砂重視(韓) |
| | 複数物質・複合影響政策 | 妥当性を指摘も、難しいとの意見も |
| | 大気・温暖化政策連携 | 可能性に関しては概ね支持 |
| 国際協力 | 望ましい枠組 | Regional 機関による共通の管理、EANETの拡充・活用 |

表2 制約要因に関する回答

| 項目 | | 制約要因(抜粋) |
|------|-------------|----------------------------------|
| 国内政策 | 複数物質・複合影響政策 | 環境情報の総合的な収集・解析、規制に関する合意形成 |
| | 大気・温暖化政策連携 | 大気汚染物質とGHGのトレード・オフ関係、両問題の施策性格の相違 |
| 国際協力 | | 東アジアにおける環境管理能力、議論のプロセス、資金支援 |

5. 結論

有効な国際協力枠組を構築するためには、越境大気汚染に関する科学的な知見の共有を推進した上で、各国の認識・立場に十分に配慮しつつ議論を進めていくことが重要である。

謝辞

回答者の皆様に心より御礼を申し上げます。本研究は、環境省の環境研究総合推進費(S-7-3)により実施された。

参考文献

秋元肇(2006) 大気汚染物質の大陸間輸送と半球規模汚染. 大気環境学会誌, 41(1) A1-A8.

キーワード 越境大気汚染、大気環境政策、国際協力